

妙見山鳥獸保護区

**鳥獸保護区更新調査業務
報告書**

平成26年度

大阪府環境農林水産部動物愛護畜産課

1.調査の目的

この調査は、平成 27 年 10 月 31 日で設定期間が満了する妙見山鳥獣保護区の更新を行うため、野生鳥獣等の生息状況を把握し、基礎資料とする事を目的とする。

2.調査区域及び調査対象

妙見山鳥獣保護区に生息する野生鳥獣等。

3.調査内容

実地調査及び既存データの収集・整理により、次の事項を把握する。

- ・当該地域の自然環境の状況
- ・生息する野生鳥獣の個体種別
- ・生息する野生鳥獣の特色・希少性

4.調査地の概要及び環境

妙見山鳥獣保護区は、大阪府の西北部、豊能郡能勢町と豊能町の境界上および兵庫県との境に位置し、標高は 270m～660m、面積は約 394ha である。鳥獣保護区内兵庫県との境に標高 660m の妙見山があり、妙見山から南西の兵庫県側に黒川、妙見山の東側から南方向に初谷川が溪谷を形成している。鳥獣保護区の大半が山地地形となっている。

保護区内の植生は北部野間川に沿って住宅地、水田雑草群落があるけれども、山地内ではスギ・ヒノキ・サワラ植林が面積の半分以上を占め、モチツツジーアカマツ群集、アベマキーコナラ群集も比較的面積が広い。その他ケヤキムクノキ群集、ブナーミズナラ群集、竹林等からなっている。光明山山頂付近のモチツツジーアカマツ群集においては高木層ではアカマツ、コナラ、リョウブ等が多く、亜高木層ではソヨゴ、コシアブラ、イヌブナ等が見られ、低木層ではアセビ、コバノミツバツツジが多く、ネジキ、クロモジ、モチツツジ等が見られる。妙見山上杉尾根のアベマキーコナラ群集においては高木層ではコナラ、カラスザンショウ、クヌギ、アベマキ等が見られ、亜高木層ではリョウブ、エゴノキ、ヤマボウシ等が見られ、低木層ではシロダモ、ヒサカキ、ヤマツツジ、モチツツジ等が見られる。

鳥獣保護区内には、能勢妙見宮があり、古くから高名な信仰の霊場となっている。また、大阪府立北摂自然公園、大阪府自然環境保全地域に指定されており、参詣やハイキング、休養の場として、広く府民に親しまれている。

5.調査地域図

図1に、調査地域図を示す。

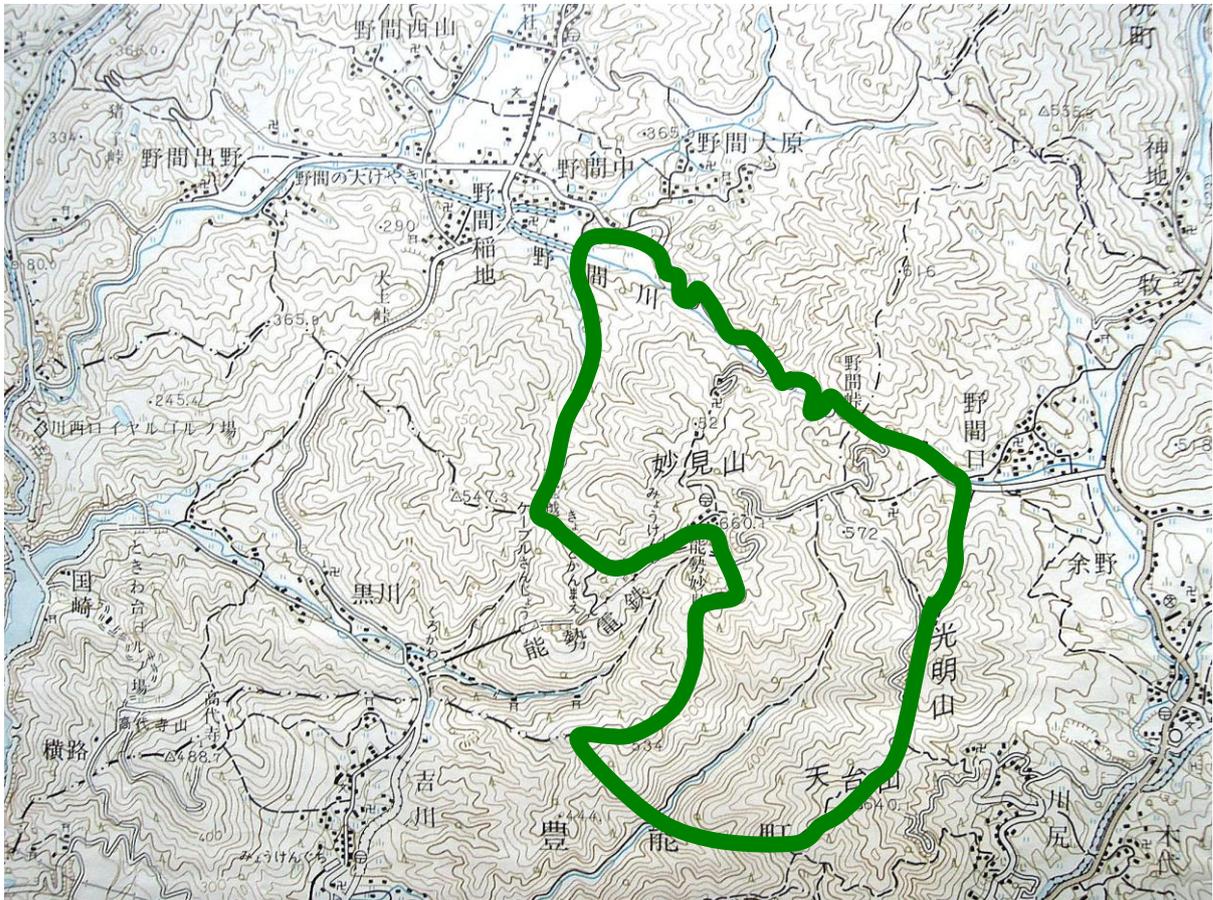


図1 調査地域図

6.調査方法

以下に示す資料による文献調査、ヒヤリング及び現地調査による。

文献1:日本野鳥の会 大阪『むくどり通信 No175～234』(2005.1～2014. 11 のデータ)

文献2:妙見山野鳥の会資料

文献3:又野淳子フィールドノート

文献4:廣田博厚フィールドノート

文献5:大阪市立自然史博物館資料

現地調査は、文献調査の補足及び最新の状況把握を主眼として実施した。

7.調査結果

7-1.鳥類の確認

今回の調査により、妙見山鳥獣保護区で確認した鳥類を、添付表 1 の妙見山確認鳥種一覧表に示す。分類は 2012 年刊行の日本鳥学会『日本鳥類目録 改訂第 7 版』によった。なお、コジュケイは中国東南部原産の鳥であるが、今回は調査対象とした。

文献調査および現地調査にて 78 種の野鳥を確認した。確認した鳥類の内訳は、留鳥 35 種、夏鳥 14 種、冬鳥 20 種、旅鳥 8 種、迷鳥 1 種である。なお、留鳥(一部冬鳥)、冬鳥(一部留鳥)、旅鳥(一部夏鳥)の()付きの種についてはそれぞれ留鳥、冬鳥、旅鳥として分類した。

生息区分については 2002 年刊行の(財)日本野鳥の会大阪支部『大阪府鳥類目録 2001』によった。図 2 に生息区分割合(%)を示す。すなわち、留鳥 45%、夏鳥 18%、冬鳥 26%、旅鳥 10%、迷鳥 1%であった。

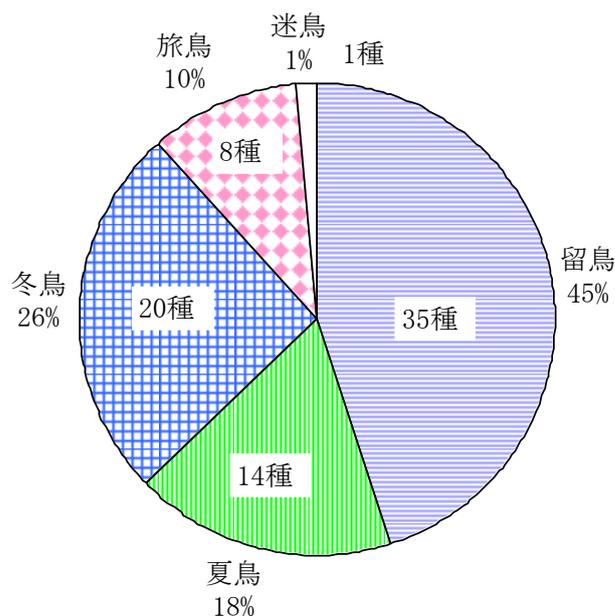


図 2 生息区分割合(%)

今回の調査で 35 種の留鳥が確認されたが、四季別の文献調査の全てで確認され

たのは、キジバト、トビ、コゲラ、アオゲラ、モズ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、スズメ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、コジュケイの 22 種であった。これらの鳥は、すべての季節に妙見山鳥獣保護区内に生息することが判った。これらの鳥は全て、冬期 12/27 の現地調査でも確認された。

今回の調査で確認された夏鳥はホトギス、ツツドリ、カッコウ、ハチクマ、サシバ、サンショウクイ、サンコウチョウ、ツバメ、コシアカツバメ、ヤブサメ、センダイムシクイ、クロツグミ、キビタキ、オオルリの 14 種であった。この内、5/20～7/20 の夏期に確認されたのはハチクマ、サシバを除く 12 種であった。

今回の調査で確認された冬鳥は、ハイタカ、ノスリ、アカゲラ、キクイタダキ、ヒレンジャク、トラツグミ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、カヤクグリ、アトリ、マヒワ、ベニマシコ、ウソ、シメ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、クロジの 20 種であった。この内、12/1～2/末の冬期に確認されたのは、アカゲラを除く 19 種であった。

今回の調査で確認された旅鳥は、イワツバメ、メボソムシクイ、マミチャジナイ、アカハラ、コマドリ、ノビタキ、エゾビタキ、コサメビタキの 8 種であった。

今回の調査で確認された迷鳥はキバシリの 1 種であった。

次に、繁殖および繁殖の可能性について述べる。今回の調査で確認した留鳥 35 種、夏鳥 14 種と今回繁殖を確認したコサメビタキ、合計 50 種を対象に、繁殖の可能性の判定を行った。繁殖の可能性の判定は環境庁編『日本産鳥類の繁殖分布』に従って判定を行なった。

その結果、繁殖を確認したもの(a ランク)はキジバト、コゲラ、アオゲラ、モズ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、カワラヒワ、ホオジロ、コジュケイの 16 種であった。

また、繁殖は確認出来なかったが、繁殖の可能性のあるもの(b ランク)はホトギス、ツツドリ、サンショウクイ、サンコウチョウ、ヒガラ、シジュウカラ、ヤブサメ、センダイムシクイ、メジロ、オオルリ、キセキレイ、イカルの 12 種であった。

また、繁殖期に生息を確認したが、繁殖についてはなんともいえないもの(c ランク)は 9 種であった。繁殖期に生息を確認できず、繁殖については何ともいえないもの(f ランク)は 13 種であった。従って、今回の調査で繁殖を確認できなかったものは 22 種であった。

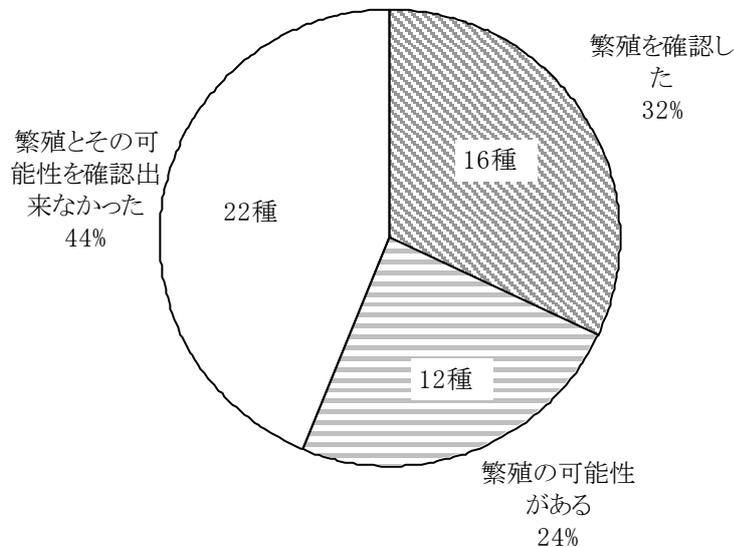


図3 繁殖の可能性(%)

図3に繁殖の可能性(%)を示す。繁殖を確認したものは32%、繁殖は確認出来なかったが、繁殖の可能性のあるものは24%、繁殖を確認出来なかったものは44%であった。繁殖を確認したものと繁殖は確認出来なかったが、繁殖の可能性のあるものの合計は56%と高い割合である。また、これらの種の内、ツツドリ、アオゲラ、サンショウクイ、サンコウチョウ、ヤマガラ、ヒガラ、ヤブサメ、エナガ、センダイムシクイ、クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、イカル等は良好な自然環境の樹林を好む種であり、これらは妙見山鳥獣保護区の重要性を示している。

今回の調査で、国内希少野生動植物種としてオオタカ、ハヤブサの2種が確認された。また、環境省レッドリスト記載種6種が確認された。内訳は、絶滅危惧Ⅱ類(VU)としてサシバ、ハヤブサ、サンショウクイの3種、準絶滅危惧(NT)としてハチクマ、ハイタカ、オオタカの3種である。希少な鳥が多く確認されたことは特筆に値する。また、大阪府レッドデータブック記載種については、絶滅危惧Ⅰ類2種、絶滅危惧Ⅱ類2種、準絶滅危惧10種の合計14種が確認された。絶滅危惧Ⅱ類のコサメビタキの繁殖とサンショウクイの繁殖の可能性が、今回の調査で確認されたことは特筆に値する。

7-2.哺乳類の確認

文献5で、11種の哺乳類が生息していることが確認された。哺乳類確認種一覧表を表2に示す。今回、山地性のニホンリス、テン、ニホンジカが確認された。大阪府レッドデータブック記載種は、準絶滅危惧としてカヤネズミの1種が確認された。

表2 哺乳類確認種一覧表

No	目	科	種名	学名	文献5
1	モグラ	モグラ	ヒミズ	<i>Urotrichus talpoides</i>	○
2			コウベモグラ	<i>Mogera wogura</i>	○
3	ウサギ	ウサギ	ニホンノウサギ	<i>Lepus brachyurus</i>	○
4	ネズミ	リス	ニホンリス	<i>Sciurus lis</i>	○
5		ネズミ	カヤネズミ	<i>Micromys minutus</i>	○
6		ヌートリア	ヌートリア	<i>Myocastor coypus</i>	○
7	ネコ	イタチ	テン	<i>Martes melampus</i>	○
8			チョウセンイタチ	<i>Mustela sibirica</i>	○
9		アライグマ	アライグマ	<i>Procyon loter</i>	○
10	ウシ	イノシシ	イノシシ	<i>Sus scrofa</i>	○
11		シカ	ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>	○

8.まとめ

1. 今回の調査で、妙見山鳥獣保護区で確認した鳥類は、78種であった。確認した鳥類の内訳は、留鳥35種、夏鳥14種、冬鳥20種、旅鳥8種、迷鳥1種である。
2. 留鳥35種、夏鳥14種と今回繁殖を確認したコサメビタキ、合計50種を対象に、繁殖の可能性を調べた結果、妙見山鳥獣保護区内で繁殖を確認したもの16種、繁殖の可能性のあるもの12種であった。これら28種は全体の56%という高い割合である。
3. また、繁殖を確認したもの、繁殖の可能性のあるものの内、ツツドリ、アオゲラ、サンショウクイ、サンコウチョウ、ヤマガラ、ヒガラ、ヤブサメ、エナガ、センダイムシクイ、クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、イカル等は良好な自然環境の樹林を好む種であり、これらは妙見山鳥獣保護区の重要性を示している。
4. 国内希少野生動植物種としてオオタカ、ハヤブサの2種が確認された。
5. 環境省レッドリスト記載種6種が確認された。内訳は、絶滅危惧Ⅱ類(VU)としてサシバ、ハヤブサ、サンショウクイの3種、準絶滅危惧(NT)としてハチクマ、ハイタカ、オオタカの3種である。希少な鳥が多く確認されたことは特筆に値する。
6. 大阪府レッドデータブック記載種については、絶滅危惧Ⅱ類のコサメビタキの繁殖と

サンショウクイの繁殖の可能性が、今回の調査で確認されたことは特筆に価する。

7. 哺乳類は 11 種の生息が確認された。その内、大阪府レッドデータブック記載種は準絶滅危惧としてカヤネズミの 1 種が確認された。
8. このように、妙見山鳥獣保護区は鳥類や哺乳類の生息に適した環境であると共に、府下の鳥類生息地として重要な地域であると言え、今後とも鳥獣保護区として更新を続け、野生鳥獣の生息地としてより良い環境を整えることが重要であると考え。

9. 観察した鳥類の写真

図 4 に今回の調査で確認した鳥類の写真を示す。

10. 参考文献

1. 大阪府 大阪府レッドリスト 2014
2. (財)日本野鳥の会大阪支部 2002 年 大阪府鳥類目録 2001
3. 環境省 報道発表資料-平成 24 年 8 月 28 日-第 4 次レッドリストの公表について
(お知らせ)
4. 日本鳥学会 2012 年 日本鳥類目録 改訂第 7 版
5. 環境庁編『日本産鳥類の繁殖分布』
6. 大阪府 大阪府野生生物目録 2000.3

妙見山の野鳥



ジョウビタキ



ホオジロ



キセキレイ



メジロ



モズ



ヒヨドリ

